

令和元年12月20日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

産業建設常任委員会委員長 谷口 和弥  
外4名

議員派遣結果報告書

令和元年9月26日に決定された議員派遣について、次のとおり報告します。

記

- 1 派遣名 産業建設常任委員会先進地視察調査
- 2 目的 委員会が所管する事項に関する先進地の取組の調査・研修のため。
- 3 派遣場所 石狩市農業協同組合（石狩市）、北広島市、千歳市
- 4 派遣期間 令和元年11月13日～14日（2日間）
- 5 派遣議員 谷口和弥、若山和幸、小田新紀、荒 貴賀、芳滝 仁  
(以上5名)
- 6 欠席議員 藤原 孟
- 7 派遣内容

(1) 石狩市農業協同組合【11/13（水）】

テーマ：「農業労働力確保について」

対応者 石狩市農業協同組合営農部営農課長 白倉 寛氏

視察目的 収穫作業時の補助労働力の確保を目的としたグリーンサポーター事業の経緯と状況について調査する。

視察内容 平成12年に市・農業委員会・農協で設立した「石狩市農業総合支援センター」で、野菜を中心とした都市近郊型農業振興に必要な収穫作業時の補助労働力の確保を目的としてグリーンサポーター事業を開始し、市町村合併後の平成18年から石狩市農業協同組合に事業が移管された。

石狩市農業協同組合が、職業安定法に基づく「特別の法人無料職業紹介事業」により、農業者に代わりパートタイマーの募集・登録を行い、農業者の依頼により調整・手配のほか、農業者の負担軽減を図るため、賃金計算業務も行っている。

農業経営の安定と農家所得の確保、都市近郊型農業を生かした労働集約型高収益作物の振興、都市近郊住民の雇用により農業への理解促進を目的に、札幌隣接のメリットを最大限活用して事業展開をしている。

所 感 グリーンサポーター事業は、事業開始から30年余りの実績があり、民会事業者による人材派遣に先んじて行われたものであり、事業内容での民間事業者との競合のない先進的なものであった。

しかしながら、雇用期間の問題、賃金格差など労働条件において、他業種との格差の改善に向けた取組も協議中とのことであり、生産者団体として強い姿勢を感じた。

## (2) 北広島市【11/14(木)】

テーマ:「ボールパーク構想と連携した地域再生事業(地域活性化・観光)の取組について」

対 応 者 北広島市企画財政部ボールパーク推進室 柴 清文氏

視察目的 ボールパーク構想の推進において、ボールパークと共に目指す新たなまちづくりの将来像を探るべく、その経過ならびに進捗状況、地域活性化・観光の展開について調査する。

視察内容 ボールパーク構想に至ったプロ野球球団誘致の経緯から、新球場の概要、市の組織体制ならびに官民連携で行うまちづくり計画について説明を受けた。

道路整備をはじめ市の負担を伴うものはあるが、新たな産業の集積や起業に伴う雇用拡大、そして交流人口の増加、消費拡大への期待、住民が地域に誇りと愛着を持つようになってきているなど、地域全体で相乗効果を生み出す夢ある将来像である。

所 感 官民一体となってまちづくりを進めていく構想には、「オリンピックの町創生事業」等の施策により、スポーツを通じたまちづくりを進める本町においても、大いに参考になる事例であった。

## (3) 千歳市【11/14(木)】

テーマ:「下水道事業の統合について」

対 応 者 千歳市水道局工事課長 谷藤 彰氏

視察目的 幕別町における公共下水道事業運営の参考とするため、千歳市における下水道の統合の経緯とその後の状況について調査する。

視察内容 昭和58年に支笏湖畔下水終末処理場が供用を開始して以来、施設更新が行われていなかったため老朽化が進み更新が

必要な状態であった。しかしながら、更新に要する費用が多額となることから、市街地まで汚水を送り千歳市浄化センターで一括処理する方式を採用した。

平成22年に事業着手し、25年から28年まで管渠延長約22kmの本工事を実施し、29年に供用開始した。支笏湖畔下水終末処理場は千歳地区へ汚水を送水するための「ポンプ場」として使用されている。

所 感 老朽化施設の更新にあっては、施設の統合による一括処理方式が将来的に大きな経済効果があると説明を受け、幕別処理場の老朽化に伴う幕別処理区の十勝川流域下水道への統合計画の参考となった。

また、震度7クラスの地震でも破断しない耐震管を採用する取組など、防災対策の必要性も感じた。

(1) 石狩市農業協同組合 (11/13)



(2) 北広島市 (11/14)



(3) 千歳市 (11/14)

